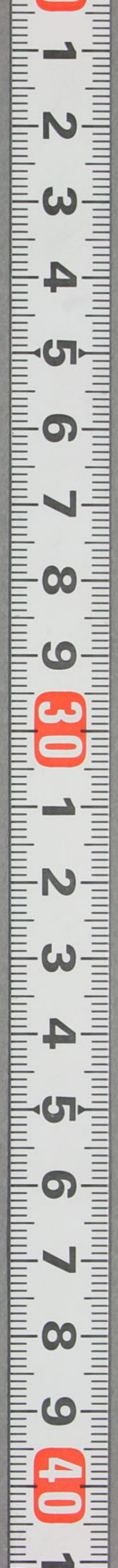


傳記

記

~ 13
3706
1



門 へ 13
3706
巻 1

薄倂

真水作

國のり堂

紅雲を捧

上の花

薄倂日記 初篇序

什麼小説家の主とあると云ふ漢小倂の種々ある

歴代の史を摸擬しつて開を以て換骨奪胎とせしむる専せら

るを賞へ新奇妙案と云ふ亦秀才多識小ありのバ夫等の域小

至りては予の唯近古の黄表紙学同好々這入る戯作門硯の海の

濁江小を各の込に足も洗ひぬ狭き机を生涯の計とあるまのうら

り更小浮は必然を紅英堂小哄誘され今復一種の策子と

採らるる物語り也幻日記と名号ある

安政五檢
戊午孟春

烏永春水識



幻日記





久保の
小櫻

同藩の
清見
四方
昭作
實



雙友團扇

駿河の國司
浮島
晴景の
舎弟
常闇
藏人
景遠



九子
十子
六子

常聞の
若僕
野干
目玉
九郎



楠正儀
田鶴
若丸
遺子

由利

由利
南後
木室



弥勒里の花空色
の精色

27

29

口緒
二番
豊國
五



前名田鶴若
後不由利
朝之助

立

31

此の巻は、
 春水作の
 貞画の
 實母散の
 柳蔭月朝妻の
 葦黄鷗八幡不知の
 錦朝樓芳希鳥の
 山亭有人作の
 九輪近海朝樓貞画の
 一葉堂孝輔景の
 下巻の
 巻入

國貞画
春水作



實母散

柳蔭月朝妻

葦黄鷗八幡不知

此の巻は、
 春水作の
 貞画の
 實母散の
 柳蔭月朝妻の
 葦黄鷗八幡不知の
 錦朝樓芳希鳥の
 山亭有人作の
 九輪近海朝樓貞画の
 一葉堂孝輔景の
 下巻の
 巻入

山亭有人作
 九輪近海朝樓貞画

錦朝樓芳希鳥

一葉堂孝輔景



